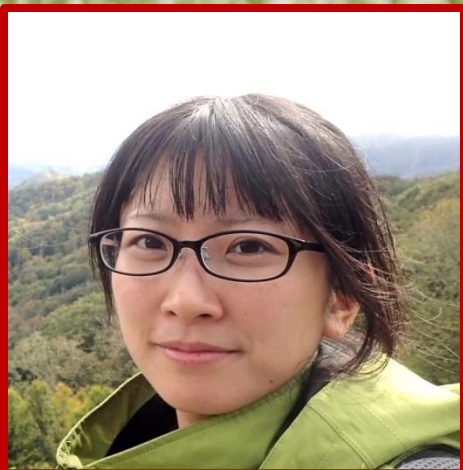




いまだ ゆめ 今田 弓女氏

愛媛大学大学院理工学研究科特定助教

入場無料・申込不要

虫と植物の知恵くらべ

～多様性と進化の物語を読み解く～

名古屋昆虫同好会 総会特別講演

今田弓女(いまだゆめ)氏 プロフィール

愛媛大学大学院理工学研究科特定助教。

1988年 東京都生まれ。

1994年 ファーブル昆虫記を読んで昆虫学者を志す。

2008年 鷗友学園女子高等学校卒業。週末は高尾山で昆虫採集に明け暮れる。

2011年 大学学部2年時に執筆した国際誌投稿論文内容がネイチャーで紹介される。

2012年 京都大学理学部卒業。虫と植物の進化に興味をもつ。

2017年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程を修了、博士(人間・環境学)を取得。日本学術振興会特別研究員(DC1)。

2017年8月-2018年7月 スミソニアン研究所国立自然史博物館(米国)古生物学研究部門研究員。植物化石を使って過去の生物間相互作用を調べる研究をはじめる。

2018年12月から現職。

各種学会にて招待講演等実施。

小学生の時に「ファーブル昆虫記」に夢中になり、昆虫学者を目指すようになりました。見た目の綺麗な虫、かっこいい虫を眺めるのも好きですが、「その背後にある目に見えない進化」のストーリーにはもっと興味を惹かれました。

大学では、昼夜研究に励む先生方や学生の方々と海へ山へ出かけて採集し、生物について語りあう日々を過ごしました。大学院を出た後、アメリカに留学し、絶滅した生物の生態を調べる「古生態学」という分野に飛び込みました。化石の視点から生物の進化を時代を追って理解しようとする、私たちがいま暮らしている世界はまるで違ってみえてきます。

私が初めて取り組んだ研究は、原始的なガの仲間「コバネガ」の進化です。その後十数年で、コバネガなどの小さな虫と原始的な植物であるコケの関係について少しずつ分かりつつあります。「植物は、4億年という長い進化の歴史のなかで、いかに昆虫や他の生物と関わってきたか？」が私の研究テーマです。これからも、この問いに挑戦していきたいです。

講演では、昆虫の研究の楽しさ・難しさ・やりがいについて、私個人の視点からお話します。

日時

2020年1月19日(日) 15:00～16:30 (一般入場 14:30～)

場所

名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール) 4F 会議室
(名古屋市千種区吹上二丁目6番3号)

問合せ先

090-9924-3518

主催

名古屋昆虫同好会

なごや生物多様性保全活動協議会 会員助成事業